

道徳科学習指導案

指 導 者

- 1 日 時 令和6年 12月 4日（水）5校時
- 2 学 年 第4学年（14名）
- 3 主題名 「ボランティアとは」〔C勤労、公共の精神〕

4 ねらい

最初よりも丁寧に草取りをするようになった「ぼく」の気持ちを考えることを通して、みんなのために働くことの喜びに気づき、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。

- 5 教材名 「ぼくの草取り体験」
（「小学道徳 生きる力4」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目〔C勤労、公共の精神〕「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。」から繋がるものである。

勤労には、金銭という見返りがあるものとないものがあり、労働と奉仕と言い分けることができる。人は誰でも多くの金銭を得たいと考えたり、見返りを求めてしまったりしてしまう。そのため、見返りのない奉仕に対しては、大切なことと思いつい敬遠しがちになる。

しかし、ボランティア（奉仕）活動はこれからの社会を成り立たせるために大切なことである。また、金銭を伴わないボランティア活動は、みんなのために行ったという満足感や充実感が伴い喜びがある。それらのことに気づき、働くことの大切さや、みんなのために働こうとする態度について考えさせることが大切である。

また、中学年の段階になると、「自分たちの学級」などと、集団についての意識が高まり、集団で活動する意欲や機会が増えていく。そこで、働くことは自分の喜びや利益だけでなく、自分たちの学級の生活や自分の家族の生活をさらに楽しくするなど、働くことは集団の役に立つことを自覚させていくためにこの主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、主人公の「ぼく」が、丁寧に草を取っているひろしの姿や、楽しそうに働く大人の姿から働く意味を考え、「ぼく」の働く態度も変わっていくというものである。児

童の身近な活動を素材としているので、「ぼく」の気持ちに共感しながら、「ぼく」の取り組み方が変化した理由を考えやすく、自らの活動を振り返らせるのに適した教材である。また、「ぼく」が草取りで気づいたことを考えることを通して、働くということは何らか物理的な見返りを得るためだけでなく、働くことによって集団や社会の生活がよりよいものになっていくことに気づき、みんなのために働くことの大切さや、そこにある喜びについて考えることができる教材である。

指導に当たっては、児童が対話を通して考えを深めていけるよう、次の4点に留意しながら指導を行う。

- ① 展開前段では、「学校や公園で草取りをしているとき、『ぼく』はどんな気持ちだったのでしょうか。」と問い、みんなのためにすることは大切だとわかっていながらも面倒くさく思い、適当にしてしまう「ぼく」の気持ちに共感させる。また、「ぼく」とひろしの仕事に対する考え方の違いについて気付かせる。
- ② 中心発問では、「公園での草取りで、「ぼく」はどんなことを考えて、最初よりも丁寧に草取りをするようになったのでしょうか。」と問う。また、「『ぼく』とひろしくんの取り組み方の違いはどんなところでしょうか。」と問うことで、ひろしの姿から、みんなのために進んで働くことよさに気付かせる。
- ③ 次に、「公園で遊ぶ子どもたちの様子を見ながら、『ぼく』はどんなことを考えたでしょう」と問い、働くことによって集団や社会の生活がよりよいものになっていくことを捉えさせる。
- ④ 展開後段では、「どのような気持ちでボランティアをするとよいだろう。」と問い、みんなのために前向きな気持ちで仕事をするための気持ちよさについて考えを深めさせる。

7 準備物 ・教科書の挿絵

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 (五分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○「ボランティア」というと、どんなことを思い浮かべますか。 ・みんなのためにやること。 ・お金をもらえなくても、誰かのために働くこと。 ・自分のためではなく、みんなのためを思ってやること。	○児童に身近な学校での仕事を想起させる。また、視野が広まるように、学校生活だけでなく、家庭や、地域で行った仕事へ広がるように言葉を掛ける。
		どのような気持ちでボランティアをするとよいだろう。	

2 「ぼくの草取り体験」を読んで考え、話し合う。

○学校や公園で草取りをしているとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。

- ・面倒くさいな。
- ・なんで僕がやらなくちゃいけないんだ。
- ・適当に抜いて、早く帰ろう。
- ・せっかくの休みだから、早く遊びたいのに。

○ひろしくんは、どんな思いで丁寧に草取りをしているのでしょうか。

- ・いつも自分が使っている公園だから、きれいにしよう。
- ・大人の人たちも、みんなが気持ちよく遊べるようにと草取りをしてくれている。
- ・みんなが使う公園だからきれいにしたい。

【中心発問】

○公園での草取りで、「ぼく」はどんなことを考えて、最初よりも丁寧に草取りをするようになったのでしょうか。

- ・自分もこの公園でよく遊んでいることを思い出したから。
- ・ひろしくんと比べて、嫌々草を抜いていた自分が恥ずかしいと思ったから。
- ・ひろしくんは、学校でも公園でも、みんなのために進んで草取りをしていると気づいたから。
- ・自分の働きが誰かのために役立っているとうれしいから。

○仕事に対する「ぼく」の最初の気持ちを捉えさせる。

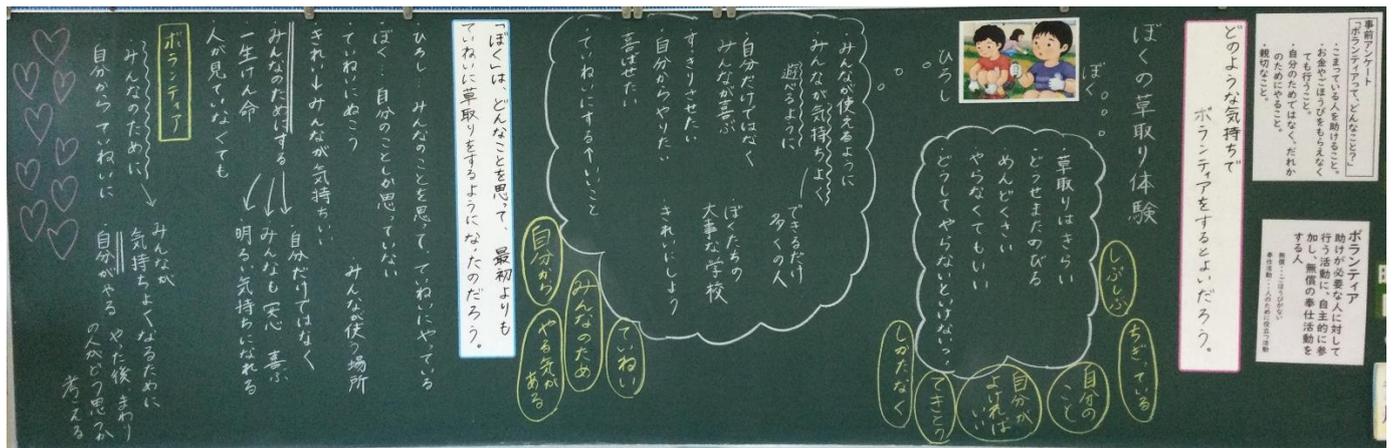
○夏休み中に行った環境整備作業での気持ちについての事前アンケートの結果を提示し、みんなのためにすることは大切だとわかっているながらも面倒くさく思い、適当にしてしまう「ぼく」の気持ちに共感させる。

○前向きな気持ちで仕事をしているひろしの気持ちを捉えさせる。

○みんなのために仕事をするということへの意識を高め、前向きな気持ちで仕事をするための気持ちよさについて考えさせる。

		<p>【考えを深める発問】</p> <p>○「ぼく」とひろしくんの取り組み方の違いはどんなところでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」は嫌々やっているけど、ひろしくんはみんなのためにやっている。 ・「ぼく」はやらされるから仕方なくやっているけど、ひろしくんは自分から進んでやっている。 <p>○公園で遊ぶ子どもたちの様子を見ながら、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってよかったな。 ・ぼくたちもみんなの役に立っている。 ・公園で気持ちよく遊んでくれてうれしい。 	<p>○「ぼく」とひろしの仕事に対する考え方の違いについて考えさせる。</p> <p>○働くことによって集団や社会の生活がよりよいものになっていくことに気づき、みんなのために働くことの満足感や充実感を捉えさせる。</p>
<p>展開後段 (十五分)</p>	<p>3 自分の生活を振り返る。</p>	<p>○どのような気持ちでボランティアをするとよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの役に立ちたい。 ・みんなの生活が気持ちよくなるように。 ・自分から進んでみんなのために働く。 ・みんなの喜ぶ顔が見たい。 	<p>【キーワード】</p> <p>・みんなのために働く。 ・みんなの役に立ちたい。 ・誰かの役に立てるとうれしい。</p> <p>●みんなのために働くこと の気持ちよさについて 考えているか。 (道徳ノート・発言)</p> <p>○おうちの方がどんな気持ちで夏休みの環境整備作業をされていたのか、事前アンケートの結果を提示する。</p>
<p>終末 (十分)</p>	<p>4 学習の振り返りをする。</p>	<p>○みんなのために進んで仕事をして いた人を紹介します。</p> <p>○今日の学習の振り返りを書きましょう。</p>	

9 板書計画



10 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 児童同士の対話の時間の確保と、隣の席の児童と机を寄せて授業を行い、対話をしやすい環境づくりを行うことで、児童が自信をもって発表することができた。
- 「考えを深める発問」で、「ぼく」も「ひろし」も行っていることはボランティアだが、同じボランティアかどうかを問うと、『ぼく』は自分の得を考えているからボランティアではない。『ひろし』は本当にみんなのために思っている。自分がやりたくて、自分からていねいにやっている。」など、考えを深めることができた。
- 終末に、どのような気持ちで環境整備作業を行ってくださったのか、保護者の方の生の声を動画で流したことで、ボランティアに対しての考えを深めることができた。
- 「公園で遊ぶ子どもたちの様子を見ながら、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。」という発問をしなかったが、時間にも余裕があったため、働くことによって集団や社会の生活がよりよいものになっていくことに気づき、みんなのために働くことの満足感や充実感を捉えさせるためには、発問をした方がよかった。
- 授業を通して、新しい発見があったことに気づくために、終末に事前アンケートと比較すればよかった。

11 今後に向けて

- ・葛藤場面がない教材の場合、児童が分かり切ったことを言って一定に流れる授業ではなく、児童が熱をもって考え、話し合いが盛り上がる場面を作ることで、授業をする前よりも得るものがあるように発問を工夫していく。
- ・考えの深まりや、新しい発見が分かるような比較のしやすい板書の工夫をする。